

研究種目：基盤研究 (B)
研究期間：2007～2010
課題番号：19401033
研究課題名 (和文) エジプト西方砂漠のオアシス地域における文化受容の研究：アムン神信仰の受容と伝播
研究課題名 (英文) A Study of an Acculturation in the Oases of the Egyptian Western Desert: In Case of Adoption and Diffusion of Amun Adoration

研究代表者

大城 道則 (OHSHIRO MICHINORI)
駒澤大学・文学部・准教授
研究者番号：00365529

研究代表者の専門分野：エジプト学
科研費の分科・細目：史学・考古学
キーワード：エジプト・オアシス・西方砂漠・アムン神

1. 研究計画の概要

古代エジプトの宗教的拠点テーベの主神であり、エジプトの国家神的存在であった羊の容貌を持つアムン神に対する信仰が如何にして、ナイル河谷から西へ砂漠を約 200km 進んだ所に存在するカルガ・オアシスにまでたどり着き、そこで土着の人々に受け入れられ、定着していったのか。地理的に離れ、環境的に異なる二つの空間 (ナイル河谷と西方砂漠のオアシス地域) における文化の受容過程とその変化の原因を主に碑文史料 (カルガ・オアシス周辺に点在するナドゥーラ、エル＝グエイタ、エル＝ザヤーンなどの神殿遺跡に存在するアムン神を描いたヒエログリフを伴うレリーフ群) と図像資料を用いて明らかにすることが本研究の目的である。

2. 研究の進捗状況

現時点における進捗状況は次のようである。(1)カルガ・オアシスにおけるアムン神に由来する碑文の三次元実測による収集を終了した。(2)その他の西方砂漠に点在するオアシス群 (シーワ・オアシス、ダクラ・オアシス、バハレイア・オアシス) におけるアムン神信仰の痕跡を主に神殿遺跡に存在する碑文資料を中心として網羅的に採集・確認した。(3)さらに西方地域 (サハラ砂漠・リビア領の地中海沿岸地域) におけるアムン神

信仰＝古代エジプト文化の浸透の例を確認するために、昨年度はエジプト以外にリビアに赴き、アカクス山地を中心に砂漠部に点在する岩絵群を確認した。また地中海沿岸部においては、エジプトの影響が見られる幾つかの神殿を訪れる機会を得た。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。計画当初は、西方砂漠のカルガ・オアシスのみを扱う予定であったが、調査の過程においてさらに西方に位置するエジプトの他のオアシス地域、あるいはリビア領に属するサハラ砂漠と東地中海沿岸地域にもアムン神の浸透例が見られることが確認された。

4. 今後の研究の推進方策

今後は、これまでに得た三次元デジタル・データをもとに図像の解釈と碑文の解読を進める。結果として、ナイル河谷から最も近く約 200km 離れたカルガ・オアシスのみならず、約 560km 離れた最西端のシーワ・オアシス、そしてさらに西方のサハラ砂漠地域と西地中海沿岸地域にまでアムン神信仰がたどり着いていたことを確認し、地理的に離れ、環境的に異なる二つの空間の中で、アムン神信仰は、土着の文化を受容しつつ、独自の変化を重ねてきた点を明らかにする。これまで

の研究によりアムン神信仰は、西方のみならず、オアシスを經由して南方のスーダンにまで到達しており、今後さらに南方との接触の可能性も提案出来る。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計9件)

- ① Michinori OHSHIRO, “Kharga Oasis and Thebes: The Missing Piece of the Puzzle in the Relocation of Amun Worship in the 27th Dynasty?”, *Orient* 43 (2007), 75-92 (査読有)。
- ② 大城道則「古代エジプトにおけるハルガ・オアシスの存在意義—エジプト西方砂漠とナイル世界とのネットワーク—」『駒澤大学文学部研究紀要』66 (2007)、89-110 (査読無)。
- ③ 大城道則「原始絵画から読み解く古代エジプト文化：女性・船・来世観—」『駒沢史学』69 (2007)、77-101 (査読無)。
- ④ 大城道則「ケントカウエス王妃はエジプト王となったのか?—第4王朝末期から第5王朝初期の編年問題とピラミッド両墓制からの視点—」『オリエント』50-1 (2007)、173-189 (査読有)。
- ⑤ 大城道則「原始絵画から読み解く古代エジプト文化—ヒエラコンポリス第100号墓の彩色壁画を解析する—」『関西大学西洋史論叢』11 (2008)、17-33 (査読有)。

[学会発表] (計5件)

- ① Ichiro KANAYA et al, “Digital Modeling of Monument of Queen Khentkawes”, 2nd International Workshop on 3D Virtual Reconstruction and Visualization of Complex Architectures 2007, (2007年7月12日~13日), Zurich (Switzerland).
- ② 大城道則「ハルガ・オアシスにおけるアムン神崇拝について」日本オリエント学会 (2007年9月30日)、関西大学(大阪府)。
- ③ Ichiro KANAYA, “Photo Browsing System for Sharing Information in Archaeological Research”,

International Conference on Virtual Systems and Multimedia (2008年10月20日), Limassol (Cyprus).

- ④ 橋本英将「ポータブル蛍光X線分析計による古墳時代装飾大刀の調査」日本文化財科学会第26回大会 (2009年7月12日)、名古屋大学 (愛知県)。
- ⑤ Hidemasa HASHIMOTO and Toshio TSUKAMOTO, “Study on metalwork of KABUTSUCHI-Ornamented Sword of Kofun-Period Japan”, 東アジア文化遺産保存学会 (2009年10月16日)、故宮博物院 (中華人民共和国)。

[図書] (計1件)

- ① 大城道則『ピラミッド以前の古代エジプト文明—王権と文化の揺籃期—』創元社、2009年、246頁。